

表5. 2. 2 (1)

地盤透水性調査 ボーリング調査結果一覧表

孔番	掘進長 孔口標高	調査位置	調査目的	地質・岩盤状況	透水性	原位置試験・試料採取等	備考
No.a1	L=60.00m EL.445.47m	弾性波探査 L-1 測線 (H 測線) の距離程 280m 地点	<ul style="list-style-type: none"> ・推定不動地盤側の地質構成・地質構造 ・地盤の透水性把握 ・地下水位の確認 ・室内試験試料採取 	<ul style="list-style-type: none"> ・0.00～0.25m：表土。 ・0.25～9.05m：降下火砕物（火山灰や軽石主体） ・9.05～16.12m：降下火砕物（ロームや火山灰主体） ・16.12～34.35m：火砕流堆積物や凝灰岩、火山礫凝灰岩主体（D級岩盤） ・34.35～57.65m：凝灰角礫岩（GL.-40m までは D 級、以深は概ね CL 級岩盤） ・57.65～59.30m：デイサイト質溶岩（CM 級岩盤） ・59.30～60.00m：凝灰角礫岩（CL 級岩盤） ・孔内水位：GL.-57.70m 	<ul style="list-style-type: none"> ・火砕流堆積物等が分布する範囲は 20 ルジオン以上の高透水性。 ・凝灰角礫岩は表層部で難透水性を示すが、深部では砂礫状を呈する区間 GL.-45～50m 区間では高透水性。 ・孔内水位は火砕流堆積物が分布する区間では GL.-21.30m 付近にあり、GL.-47.0～49.62m の凝灰角礫岩を掘進すると GL.-49.40m まで低下し、GL.-57.65～59.30m のデイサイトを掘進すると GL.-57.70 まで低下。 	ルジオンテスト：8 回 試料採取：岩石 No.a1-1（17.10～17.30m） No.a1-2（36.10～36.20m） No.a1-3（38.70～38.85m）	
No.a2	L=50.00m EL.440.23m	弾性波探査 L-2 測線(I 測線) の距離程 220m 地点	<ul style="list-style-type: none"> ・推定不動地盤側の地質構成・地質構造 ・地盤の透水性把握 ・地下水位の確認 ・室内試験試料採取 	<ul style="list-style-type: none"> ・0.00～7.90m：降下火砕物（火山灰や軽石主体） ・7.90～12.75m：降下火砕物（ロームや火山灰主体） ・12.75～31.80m：火砕流堆積物や凝灰岩、火山礫凝灰岩主体（D級岩盤、上部は CL 級） ・31.80～32.85m：湖成堆積物（固結粘土） ・32.85～50.00m：凝灰角礫岩（概ね CL 級岩盤） ・孔内水位：GL.-18.1m 	<ul style="list-style-type: none"> ・表層部の火砕流瀧瀬物（GL.15～20m）はやや高透水性を示すが、深部は 2 ルジオン以下の難透水性地盤を呈す。 ・凝灰角礫岩（GL.-30～50m）は全体的に 2 ルジオン以下の難透水性。 ・孔内水位は掘進と共に低下するが、深度 15～18m 付近で安定。 	ルジオンテスト：7 回 試料採取：岩石 No.a2-1（19.85～20.00m） No.a2-2（33.78～34.00m）	
No.a3	L=60.00m EL.425.46m	弾性波探査 L-1 測線 (H 測線) の距離程 174m 地点	<ul style="list-style-type: none"> ・推定移動地盤側の地質構成・地質構造 ・地盤の透水性把握 ・地下水位の確認 ・室内試験試料採取 	<ul style="list-style-type: none"> ・0.00～2.90m：廃棄物（RDF 様物主体） ・2.90～4.00m：廃棄物（覆土） ・4.00～6.00m：廃棄物（パーク堆肥主体） ・6.00～6.90m：廃棄物（覆土・汚泥） ・6.90～10.30m：廃棄物（埋土） ・10.30～12.30m：降下火砕物（ローム・火山灰） ・12.30～12.50m：旧表土 ・12.50～24.10m：凝灰角礫岩（礫含有率が高く比較的硬質、CL～CM 級岩盤） ・24.10～60.00m：凝灰角礫岩（発泡した安山岩礫を多く伴う。やや軟質な CL 級岩盤） ・GL.-49.78～50.80m は変質を伴った固結粘土からなり、下部では傾斜 60° 程度の流理構造あり。 ・孔内水位：GL.-12.10m 	<ul style="list-style-type: none"> ・被覆層直下の凝灰角礫岩（GL.15～30m）は 10 ルジオン程度のやや高透水性。 ・GL.-30～60m 区間の凝灰角礫岩は 2 ルジオン以下の難透水性。 ・地質的脆弱部周辺（GL.-50m 付近）も難透水性。 ・孔内水位は孔底 35.0m に対し、GL.-12.10m であったが、孔底 60.0m では GL.-21.60m に低下。 	ルジオンテスト：9 回 試料採取：岩石 No.a3-1（13.32～13.62m） No.a3-2（17.75～18.00m） No.a3-3（28.55～28.70m）	
No.a4	L=50.00m EL.425.60m	弾性波探査 L-2 測線(I 測線) の距離程 140m 地点	<ul style="list-style-type: none"> ・推定移動地盤側の地質構成・地質構造 ・地盤の透水性把握 ・地下水位の確認 ・室内試験試料採取 	<ul style="list-style-type: none"> ・0.00～4.20m：盛土 ・4.20～8.00m：降下火砕物（火山灰や軽石主体） ・8.00～13.50m：降下火砕物（ロームや火山灰主体） ・13.50～13.80m：旧表土 ・13.80～14.90m：凝灰岩（D級岩盤） ・14.90～50.00m：凝灰角礫岩（木片を伴う凝灰角礫岩で、概ね CL 級岩盤） ・孔内水位：GL.-10.00m 	<ul style="list-style-type: none"> ・被覆層直下の凝灰角礫岩（GL.15～20m）は 2.2 ルジオン程度の透水性。 ・GL.-20～60m 区間の凝灰角礫岩は 2 ルジオン以下の難透水性。ただし、GL.-25～30m 区間は約 20 ルジオンの高透水性。 ・孔内水位は掘進と共に低下し、GL.-10.00m で安定。 	ルジオンテスト：7 回 試料採取：岩石 No.a4-1（21.10～21.28m） No.a4-2（22.00～22.15m） No.a4-3（39.00～39.23m）	

表 5. 2. 2 (2)

地盤透水性調査 ボーリング調査結果一覧表

孔番	掘進長 孔口標高	調査位置	調査目的	地質・岩盤状況	透水性	原位置試験・試料採取等	備考
No.a5	L=60.00m $\theta=60^\circ$ EL.436.19m	弾性波探査 L-1 測線 (H 測線) の距離程 232.8m 地点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推定地質的脆弱部の有無および性状 ・ 地盤の地質構成・地質構造 ・ 地盤及び地質的弱層部の透水性把握 ・ 地下水位の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0.00～0.40m：覆土。 ・ 0.40～0.80m：廃棄物（RDF 様物主体） ・ 0.80～2.00m：廃棄物（パーク堆肥混じり RDF 様物主体） ・ 2.00～2.10m：覆土 ・ 2.10～4.60m：廃棄物（パーク堆肥・焼却灰主体） ・ 4.60～6.15m：廃棄物（埋土、汚染臭あり） ・ 6.15～8.10m：降下火砕物（火山灰や軽石主体） ・ 8.10～22.90m：火砕流堆積物や凝灰岩主体（D 級岩盤） ・ 22.90～47.95m：凝灰角礫岩（全体的に CL～CM 級岩盤であるが、一部変質により D 級となる） ・ 47.95～50.75m：変質により劣化しており、礫状～粘土状を呈する。見かけ傾斜 40° の流理構造あり。 ・ 50.75～60.00m：帯紫色を呈する凝灰角礫岩で、デイサイト礫を多量に含み自破砕状を呈する。 ・ 孔内水位：GL.-13.80m 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火砕流堆積物から凝灰角礫岩（GL.-15～60m）まで 2 ルジオン以下の難透水性。 ・ 孔内水位は掘進とともに低下し、GL.-13.80 まで低下した。さらに推定弱層部を掘進後、GL.-22.50m に低下。 	ルジオンテスト：9 回	
No.a6	L=60.00m $\theta=60^\circ$ EL.430.40m	弾性波探査 L-2 測線 (I 測線) の距離程 163m 地点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推定地質的脆弱部の有無および性状 ・ 地盤の地質構成・地質構造 ・ 地盤及び地質的弱層部の透水性把握 ・ 地下水位の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0.00～3.00m：廃棄物（RDF 様物主体） ・ 3.00～3.90m：廃棄物（焼却灰主体） ・ 3.90～4.60m：廃棄物（RDF 様物混じり焼却灰主体） ・ 4.60～6.00m：廃棄物（パーク片混じり土砂） ・ 6.00～8.00m：埋土（ローム質土砂） ・ 8.00～14.20m：降下火砕物（火山灰や軽石主体） ・ 14.20～23.40m：火砕流堆積物や凝灰岩、火山礫凝灰岩主体（D 級岩盤） ・ 23.40～24.30m：湖成堆積物（有機質土、ラミナあり） ・ 24.30～60.00m：凝灰角礫岩（概ね CL 級岩盤） ・ 48.15m には見かけ傾斜 40° のスリッケンサイドあり。 ・ 孔内水位：GL.-18.1m 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表層部の火砕流滝瀬物（GL.15～20m）はやや高透水を示すが、深部は 2 ルジオン以下の難透水性地盤を呈す。 ・ 凝灰角礫岩（GL.-30～50m）は全体的に 2 ルジオン以下の難透水性。 ・ 孔内水位は掘進と共に低下するが、深度 15～18m 付近で安定。 	ルジオンテスト：9 回	